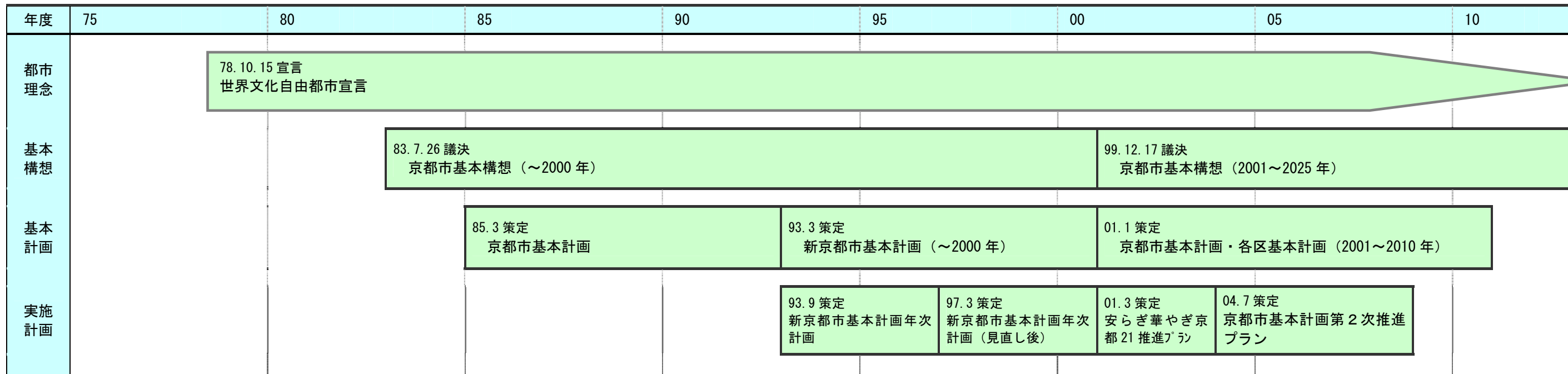


京都市における基本計画（総合計画）の変遷について



世界文化自由都市宣言

（1978年10月15日）

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

	京都市基本構想（～2000年）	京都市基本構想（2001～2025年）
特徴	地方自治法（法第2条4項）に基づく、はじめての基本構想 5つの都市像と7つの施策の大綱を設定	市民による起草、主語は「わたしたち京都市民」
基調テーマ	伝統を活かし 創造を続ける都市・京都 —建都1200年をのぞむ市民のまちづくり—	くらしに安らぎ まちに華やぎ 信頼で築く21世紀の京都

	京都市基本計画	新京都市基本計画	京都市基本計画
位置付け	京都市基本構想に基づく計画	京都市基本構想に基づく後期計画	現行の京都市基本構想に基づく計画
策定プロセス	市民提案の募集、骨子に対する市民意見の募集など一定の市民参加の取組	シンポジウム、市民アンケートなど市民参加の取組の拡充	審議会委員公募、有識者ヒアリング、各種団体意見交換会などの市民参加の取組の充実・強化
基調テーマ	（基本構想に同じ）	平成の京づくり —文化首都の中核をめざして—	（基本構想に同じ）
まちづくりの基本方針	①伝統の継承と創造 ②基本的人権の尊重 ③市民本位の市政	①人が主役の健康都市づくり ②保全・再生・創造の都市づくり ③発信を続ける芸術文化都市づくり ④グローバルな視野での都市づくり	①本格化する地方分権 ②厳しい財政状況と間断なき市政改革 ③広域的視点と地域的視点 ④環境を軸とした政策の展開
部門別計画	①健康と福祉 ②労働と消費生活 ③産業 ④教育と学術研究 ⑤文化 ⑥安全と供給・処理 ⑦都市空間の整備	①人権の尊重 ②保健医療と福祉 ③くらしの基盤づくり ④産業 ⑤生涯学習の展開 ⑥文化と交流 ⑦都市の安全と環境 ⑧魅力ある都市空間の創造	1 安らぎのあるくらし ①すべてのひとがいきいきとくらするまち ②ひとりひとりが支え、支えられるまち ③だれもが安心してくらするまち 2 華やぎのあるまち ①活力あふれるまち ②魅力あふれるまち ③市民のくらしとまちを支える基盤づくり 3 市民との厚い信頼関係の構築をめざして
地域別計画	計画なし	6ブロックの地域別計画	「各区基本計画」として策定
行政評価	なし	なし	政策評価 2003年度試行、2004年度本格実施

市民の視点からみた横断的な構成

